

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価結果

結果

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	鹿島市立北鹿島小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・マイプランの作成や授業研究を通して、全職員で授業改善に取り組むことができた。特に算数科においては、全校統一した学習過程や家庭での事前学習の徹底により北小の学習スタイルが定着しつつある。課題は、学力検査の結果に学年間の差が大きく見られることである。落ち込みが激しい学年に対して学校全体で取り組み、学校全体の学力向上を目指す必要がある。 ・望ましい生活習慣については、PTAとの連携しながら、学校と家庭との連携を強化する必要がある。 ・コロナ禍の中でも体験活動を工夫して実施することが概ねできた。地域の協力体制が整っていることが結果につながっている。運営協議会の場を大切に地域とともに育つ学校づくりを目指す。 ・時間外勤務の削減については、上限時間を決めて取り組んだおかげで、時間を意識した働き方が定着してきた。 ・今後は、働き方改革に対して職員一人ひとりがアイデアを出し合いながら、実感を伴った働き方改革を推進したい。 ・特別支援教育についての理解について職員で共通理解をする必要がある。その上で、学校全体で支援を要する児童を含めた気になる子の手だてを講じていく必要がある。
------------------	--

2 学校教育目標	<p>「命 ひびき合い」</p> <p>★児童1人ひとりが可能性を広げ、生き生きと自分のよさを発揮している姿</p> <p>★学び合いながら、互いの良さを認め、それぞれの感性をひびき合わせている姿</p> <p>★自尊感情を持ち、友だちのよいところに気づき、たたえる姿</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「たくましい身心の育成」を柱に、地域との連携及び特別支援教育の充実を図る。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目										
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		担当
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度	進捗状況と見通し	達成度	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員で5月下旬までにマイプランを共有すると共に校内研究にも積極的に取り組む。メンタリングで積極的に声をかけ合うとともに授業の見せ合いを年間2回以上行う。 ・すべての教員がタブレット端末を活用した授業や活動を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究では、OJTを中心として、職員主体の研究が進められている。 ・メンタリングは、ほぼすべての職員が、実践することができた。 ・すべての学級担任が、週末を中心として、児童にタブレットを持ち帰らせ、自宅でのタブレット学習を実践させることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究でのOJT取り組みは、年間を通じて積極的に取り組むことができた。また、外部から多くの講師を招聘したり、他校の教職員の参加もあって、大変盛り上がった研究となった。 ・メンタリングについても、すべての職員が、実践することができた。 ・タブレット端末の持ち帰り学習については、すべての学級担任が実施することができているが、市内他校と比較して実施率がやや低いので、さらに積極的に実施していく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の努力が感じられる。 ・教え合う立場の中で上から目線の関係ができないかと思われるように願う。 ・メンタリングは本当により取り組みだと思ふ。 	学力向上プロジェクト

<p>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</p>	<p>○主権者教育の視点を取り入れた「命ひびき合い広め隊」の放送で、全学年の子どもたちが1回以上紹介される。 ○道徳の授業を週に1回確実に実施し、生き方や在り方について考え、新しい自分や、新しい考え方を見つけていけるようにする。</p>	<p>・職員が目指す児童の具体的な姿を児童の中から見つけ、朝や帰りの時間にクラスの子どもたちへ紹介する。また、各クラスの紹介で留めず、放送や朝会の場でその姿を紹介し、学校全体へ広めていくことで自己肯定感を高めていく。 ・道徳の授業を保護者にも公開することで、家庭への啓発をする。</p>	<p>A</p> <p>・全校児童の自己肯定感を高めるために、思いやりのある行動や当たり前前に頑張っている姿を紹介し、担任だけでなく、全職員で声かけをして伸ばしていく意識を高くもって指導を行うことができた。 ・6月の日曜参観で道徳の授業を保護者へ公開することができた。児童は自分の生活を振り返りながら、保護者や友だちから多くの支えや助けを得られていることに気づき、感謝の気持ちをもってこれから生活をしていきたいと思うことができた。</p>	<p>A</p> <p>・「命ひびき合い広め隊」の放送で、全学年の子どもたちが1回以上紹介された割合は100%。 ・80%以上の職員が道徳教育など豊かな心を育成するための活動を行うことができた。道徳の授業を週に1回確実に実施し、生き方や在り方について考えさせ、新しい自分や新しい考え方を見つけていける授業を実践できた。 ・各学年、1回の道徳の授業を公開し、保護者に子どもの様子を観ていただき、子どもと同じ道徳的な価値観を共有していただくことができた。</p>	<p>A</p> <p>・道徳教育は、今後、ますます充実した活動が望まれると思う。 ・自己肯定感は、大切。自分を認めてもらうこと、気持ちが満ちていくと、思いやる心も生まれていくのではと思います。素晴らしい。</p>	<p>心の教育プロジェクト</p>
<p>●心の教育</p> <p>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</p>	<p>○「生活アンケート」の実施で、学校生活が楽しい児童の割合を90%以上にする。</p>	<p>・年3回の生活アンケートやQUテストの実施および教育相談週間を年間2回設定し、実態把握をする。 ・気になる児童の観察を行う「1日観察日」を設定する。その後、全職員で共有する場を設ける。 ・スクールカウンセラーなど校外の講師を招いて校内の研修会を実施し、子どもの見取り方を学ぶ。</p>	<p>A</p> <p>・6月の生活アンケートをもとに、教育相談週間を設けた。困り感のある児童を把握し、問題を解決するだけでなく、当たり前前に頑張っている姿を褒めて伸ばし、自己肯定感を高めてあげることができた。 ・気になる児童に関しては、職員連絡会で報告する時間をつくり、全職員で把握し、全職員で該当児童を育てていく意識をもつことができた。 ・スクールカウンセラーに不登校児童の思考や職員の接し方などを学ぶことができた。</p>	<p>A</p> <p>・「生活アンケート」の実施で、学校生活が楽しい児童の割合は80% ・QUテストは2回実施し、1回目の結果は夏に研修会を開き、児童のクラスでの状況や個別に抱える問題を把握し、学級経営に生かすことができた。 ・教育相談週間は年間2回実施をして、1人1人しっかりと話す時間を設けて、実態の把握と問題の解決、個々の頑張りを褒めてあげる時間をとることができた。 ・1日観察日は全職員で気になった児童を観察し、全職員で見守るような体制がとれた。</p>	<p>A</p> <p>・個々に対して「ほめる」「頑張りを伝える」ことはよいことと思う。 ・全職員で見守る体制が出来ていることは素晴らしい。学業だけでなく、心の教育まで先生方がご尽力に有り難い気持ち。</p>	<p>心の教育プロジェクト</p>
<p>●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。</p>	<p>●「先生はあなたのよいところを認めてくれたと思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上</p>	<p>・子どもたちの他者を思いやる姿やさりげなく助け合う姿を見せた時すぐに褒めるよう心がける。 ・帰りの会では、子どもたちが気持ちよく帰り、次の日元気よく登校できるように、担任はその日の良いことをできるだけたくさん伝えて帰すように心がける。 ・定期的に子どもたちが自分の夢や目標について考えさせる機会を設ける。</p>	<p>A</p> <p>・教師側から褒める視点を与え、子ども同士でメモ用紙などに良かったところを書かせて掲示をすることで、できるだけ多くの児童を褒めることができた。 ・道徳では偉人の生き方や姿から自分の夢や希望について考えたり、総合学習では、地域の方に北鹿島の歴史や農業について聞いたりすることで、よりよい自己実現に向けて高い目標を立て、物事をやり抜こうとする心情を育てることができた。</p>	<p>A</p> <p>・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒89% ・道徳の時間を中心に、自分の夢や目標について考えさせる時間を設けることができた。 ・人権週間では子どもの良い点を紹介する掲示を各学年の教室で行った。教師側も子どもたちの良い所を書き、紹介することで、褒める視点を子どもたちに教え、たくさんの子どもたちが褒められるようにした。</p>	<p>A</p> <p>・「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答した児童が90%以上が本場に素晴らしい。</p>	<p>心の教育プロジェクト</p>
<p>●健康・体づくり</p> <p>●「望ましい生活習慣の形成」 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ●「安全に関する資質・能力の育成」</p>	<p>○早寝・早起きができる児童の割合を85%以上にする。 ○1日のテレビ・ゲーム等の視聴時間2時間以内の児童の割合を80%とする。 ○「健康に良い食事をしている」児童の割合を80%以上にする。 ○朝ごはんの喫食率を95%以上にする。 ○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。</p>	<p>・年2回、食育月間に合わせて、生活状況調査および食に関する意識調査を実施する。 ・児童への指導だけでなく、家庭への啓発を行い、学校と家庭が連携して望ましい生活習慣の定着に努める。 ・「北鹿島小安全マップ」を用いて、危険箇所等について児童と情報を共有する。 ・地域見守り一斉下校指導を年間3回行い、安全教育の推進を図る。</p>	<p>A</p> <p>・「早寝・早起き・朝ごはん」の実態調査を6月に実施し、「早寝」は91%、「早起き」は97%、「朝ごはん」は98%であった。また、1日のゲーム時間は平均23分、動画視聴時間は平均55分であった。 ・実施結果については、夏休み明けにお便りで家庭にお知らせする予定。 ・安全マップをもとに、夏休み前の地区児童会でそれぞれの地区の危険箇所を確認した。また、PTAと協力して校区内の見回りをを行い、安全マップの見直しをした。</p>	<p>A</p> <p>・12月に行ったアンケートでは、早寝・早起きいつもができていない児童は83%、朝ごはんを毎日食べている児童は93%であった。また、平日のテレビやゲームの時間が2時間より少ない児童は71%であった。 ・健康にいい食事をしている(好き嫌いをせずに3食食べている)児童は83%であった。 ・PTAや地域の方、交通指導員の協力のもと、地域見守り一斉下校指導を3回おこなうことができた。</p>	<p>A</p> <p>・ノーテレビ・ノーゲームデーは親子家族の会話やコミュニケーションを取るのには大事な事。 ・この課題は、学校だけでは限界がある ・朝ごはんを食べるのは当たり前のようにすが…93%の結果をみてよかったと思う。</p>	<p>健康・安全教育プロジェクト</p>
<p>○自主的体育活動の促進</p>	<p>○進んで運動しようとする児童の割合90%以上の継続を目指す。</p>	<p>・委員会による外遊びの推奨や県の「さがんキッズスポーツチャレンジ」への取組等で、全児童の体力向上のための支援を行う。 ・たてわり活動やマラソントイム、各種記録会(水泳、なわとび等)を充実させる。</p>	<p>B</p> <p>・5月に、保健体育委員会による全校レク「バグゴ大会」を行った。誰でもできる競技を行うことで、全校で楽しむことができた。 ・月に1回、昼休みにたてわりタイムを行った。15分程の活動ではあるが、体を動かして遊ぶことができています。</p>	<p>A</p> <p>・県の「さがんキッズスポーツチャレンジ」に向けて、たてわり班で大縄跳びに取り組んだ。上級生が下級生に教える姿が見られ、異学年交流ができた。また、体育の時間には、各学年で行い、全校でスポーツチャレンジに取り組むことができた。 ・大谷翔平さんからのグローブが届き、全児童が触れる機会をつくった。昼休みに運動場でキャッチボールを楽しんでいた。</p>	<p>A</p> <p>・スポーツは、楽しみながら愉快地にやるのが大切ですので素晴らしい。思い出にも残る。 ・目標に対しての達成度が分からない。 ・異学年交流もいい。これからも様々な楽しい健康体作りに取り組んでほしい。</p>	<p>健康・安全教育プロジェクト</p>

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校時表を見直すことで放課後の時間を確保する。 ・本校独自で定時退勤日を設定するとともに19時には退勤するよう声かけを行う。 ・書類や資料の電子化を進め、共有フォルダや校内掲示板の活用を推進する。 ・使い勝手の良い教室や執務スペースの整備を行う。	B	・校時表を見直し、昨年度より放課後の時間を増やした。 ・北鹿島小定時退勤日を職員の見直し、金曜日に設定し、18時までは職員が帰るようになりつつある。 ・夏季休業中に職員で教材室の整理整頓を行った。 ・業務連絡については、掲示板活用が定着している。	B	・定時退勤日は、いつもよりも早く退勤する教職員が増えた。しかし、教職員に向けたアンケートの「働き方改革推進に向けた業務改善がなされている」の項目で約23%の教職員が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した ・校時表の見直しを行ったが、職員が改善を感じていない。管理職が働き方を提言するだけでなく、職員一人一人が自らの校務分掌等で効率的な働き方を考え、意識化できるように今後も働きかけていきたい。	B	・取り組むことが大切。徐々に成果が出るはず。 ・少しずつ改善されているようでよかった。現状からいくとそう簡単にはいかないのかもしれませんが、よりよい状況へ向かっていってほしい。	管理職
	○計画的な年休取得の促進	○年間年休取得日数平均14日以上を目指す。	・長期休業中の会議・研修等の厳選及び校時表の工夫によりまとまった休暇がとりやすくとともに年休取得の声掛けを適宜行う。 ・長期休業勤務計画提出時に年休取得が少ない職員へは個別に声をかける。	A	・30分単位で年休取得できることを年度当初に伝えたり、職員の体調管理やワークライフバランスについて話をしたりすることで休暇の申請をしやすくしている。 ・夏季休業中の勤務計画をチェックし、年休取得について個別に声をかけた。	A	・年休取得促進、担任が年休を取得した場合の学級への級外を配置することで、年休を取得しやすい職場づくりができた。年休取得日数15、75日であり、職員が心身ともに健康に働くことができた。	A	・全員の協力が必要。みんなでそのような職場環境づくりをすれば達成できると思う。	管理職

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		担当
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評)	進捗状況と見通し	達成度(評)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域連携	○社会に開かれた教育課程の実現及び地域連携の強化	○体験活動を通して、北鹿島の良さを感じ取ることができる児童90%を目指す。 ○体験活動で学んだことを全学年発信する。	・体験活動は、児童に計画を立てさせ、主体的に取り組ませる。 ・発信する場として「ふれあい集会」を設ける	A	・自分たちで町探検の計画を立てて実行したり、海苔づくりや米作りの体験をしたりして地域の魅力を感じ取ることができていた。 ・学習したことを新聞にまとめたり、発表会を行ったりして発信することができた。	A	・生活科や総合的な学習の時間で行う体験活動を通して、北鹿島の良さを感じることができた。と答えた児童が93%だった。 ・「ふれあい学習発表会」で、地域の魅力や地域の方への感謝の気持ちを伝えることができた。	A	・昔遊び等は老人クラブへ多くの参加呼び込みが必要かと思われる。 ・地域の特色を生かした体験活動やふれあいがすばらしい。 ・体験活動は、とてもよい。実際に自分が感じる事が大事だと思う。	郷土愛・体験活動
○特別支援教育の充実	○全職員の意識と専門性の向上	○教育活動を進めていくにあたって、合理的配慮を行っているか回答する職員を95%以上にすることを目標とする。 ○「学校は、児童一人ひとりの理解に努め、指導や支援を行っている」という問いに、肯定的な回答をする保護者85%以上を目指す。	・合理的配慮を取り入れた環境づくりや授業づくりについて学ぶ研修会を行う。 ・児童のつまずきに応じた指導を工夫し、その手立てと効果について、通信等で保護者に発信していく。	A	・UDに関する研修会を行い、合理的配慮を取り入れた環境づくりや授業づくりについて学び、実践につなげることができた。 ・ケース会議や支援会議の中で、児童の課題に応じた指導について話し合うことができた。	A	・支援を必要としている児童の居場所づくりや教育相談活動を行うなど合理的配慮をおこなっていると答えた職員が100%だった。 ・「学校は、児童一人ひとりの理解に努め、指導や支援を行っている」という問いに、93.7%の保護者が肯定的な回答をした。	A	・児童ひとりひとりに合わせて配慮がなされており教職員で共有しているところがすばらしい。 ・保護者の方々が93.7%もの評価をくださって、これだけ信頼度があるというのが本当に先生方のご尽力のおかげ。保護者の方々も安心しておられるのがすばらしい。	特別支援コーディネーター

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・自主的体育活動の推進については、バグー大会やボウリング大会等、児童が自主的に計画し、児童主体で活動に取り組むことができた。そのため、児童は、楽しみながら体を動かすことの心地よさを味わうことにつながった。</p> <p>・教職員の個々の課題解決に向けて、メンタリングという手法を取り入れることにより、課題解決のために自ら積極的に動く姿と課題に悩む職員のためにさらに学び、学びを与えようとする姿が見られ、さらに風通しの良い職場環境となった。</p> <p>・年休取得については、積極的な声かけと年休をとってもバックアップできる校内での体制をとることにより、取得日数が増えた。しかし、業務効率化と時間外在校時間については、職員一人一人が見直し、学校全体で取り組む必要がある。</p> <p>・家庭学習や生活習慣については、依然として課題がある。引き続き、家庭との連携について、PTAや地域と連携しながら家庭への働きかけを行っていきたい。</p>
----------------	---